



グローバル情報技術で笑顔を創る
株式会社 SYSホールディングス



INVESTORS' GUIDE

The 7th Period

第7期 株主通信

2019年8月1日>2020年7月31日

ごあいさつ

米中経済戦争が激しくなり、世界経済へ大きな影を落とす中、突然にコロナ禍が起り、各国GDPは歴史的な後退を記録しています。そこで、各国が行ったかつてない規模の膨大な経済対策は、雇用を支えるに留まらず、余剰資金となり金・株式・債権等の市場になだれ込みました。その結果、現在のところ当業界は、リーマンショック時よりも経営環境が悪化していない不思議な経営環境にあります。この様な中、当社は第7期を終えました。

これもひとえに、株主の皆様始め、携わった全ての皆様のご愛顧、ご支援によるものと厚く御礼申し上げます。

売上高58億90百万円、営業利益3億44百万円と何れも過去最高を記録することが出来ました。これは、株式上場以来宣言してきた、より高いステージでより付加価値の高い情報サービスを担えるよう最大限に人材投資(採用・育成)を行い、最大限にM&Aを行った成果と言えます。

第8期は、売上高60億円、営業利益3億円を予想しております。以前の計画より、随分低くなりましたが、实体经济の復調の兆しが見えないコロナ禍において、経営環境が2020年10月、2021年4月と段階的に厳しくなると予測しております。よって、今期の予算を「重く厳しい足踏み」と銘打ち、この厳しい状況でも何とか増収させ最小限の減益に努めることとし、人材投資もM&Aも必要最低限とします。M&Aは積極的に検討を重ねておりますが、売り手の価格は未だコロナ禍前の水準でありますので、価格が落ちると予測する2021年4月頃までは、我慢が必要だと考えております。景気の底と判断した時は、一挙に投資を再開します。それに備え、23億32百万円の十分な現預金を保有し、更にコミットメントライン20億円と当座貸越枠を7.5億円確保いたしました。

第8期は「重く厳しい足踏み」となりますが、更なる成長を目指し一歩ずつ着実に進んで参りますので、より一層のご愛顧、ご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。

代表取締役 会長兼社長



事業の概況

Business Highlight

当連結会計年度におけるわが国経済は、当初、雇用環境の改善を下支えにし、景気は緩やかな回復基調で推移しておりましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により個人消費、輸出、設備投資が低迷し、雇用環境も悪化しております。また、国内外の経済活動への影響の長期化に対する懸念等から、日本経済の先行きは不透明な状況となっております。

当社グループが属する情報サービス産業においては、経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査2020年6月分確報」の情報サービス業の売上高合計は、前年同月0.3%減と2か月連続の減少、「受注ソフトウェア」は、同3.6%減と2ヶ月連続の減少となりました。

このような経済状況のなか当社グループは、新型コロナウイルスの流行以前は、積極的な採用を行うことで、収益基盤の拡大に努め、また、顧客からの信頼を獲得し、リスクが低く安定した収益が期待できるリピートオーダーの提案・受注や、新規連結子会社との営業連携や事業効率の向上に努めることで、収益構造の安定化を図りました。また、新型コロナウイルスの流行後は、テレワーク

の実施やリモート会議の利用等により事業の継続に努めるとともに、採用の抑制により、顧客のソフトウェア投資の抑制に伴う受注の減少による待機工数の増加に備えました。

それらの結果、新型コロナウイルスの流行以前の積極的な採用により、技術者の稼働人数が前年同期よりも増加したことに加えて、前連結会計年度のM&Aによる新規連結子会社の増加や事業譲受等による受注の増加が売上高増加の要因となりました。

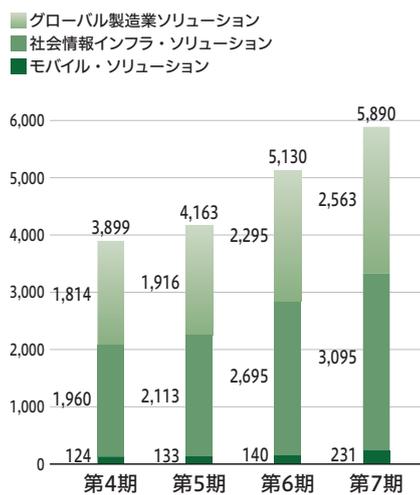
また、一部の高収益プロジェクトや、採用数が前年同期を下回ったことにより技術者の教育・待機工数が減少したこと、売上高の増加に対して販売費及び一般管理費等の間接費用の増加が少なかったことが、利益増加の要因となりました。

以上の要因により、当連結会計年度における連結業績は、売上高5,890百万円(前期比14.8%増)、営業利益344百万円(前期比59.1%増)、経常利益341百万円(前期比49.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益220百万円(前期比43.3%増)となりました。

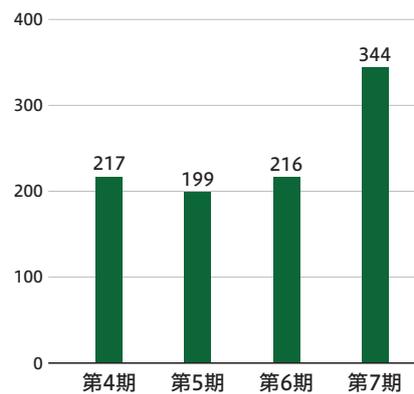
業績ハイライト

Financial Highlight

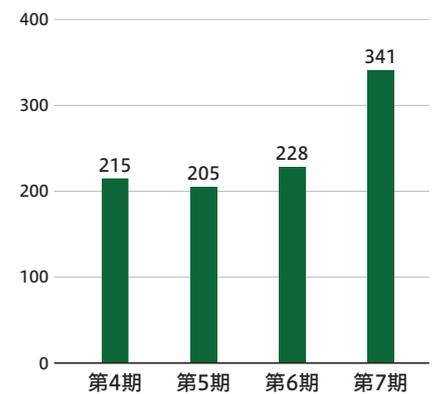
売上高 (単位: 百万円)



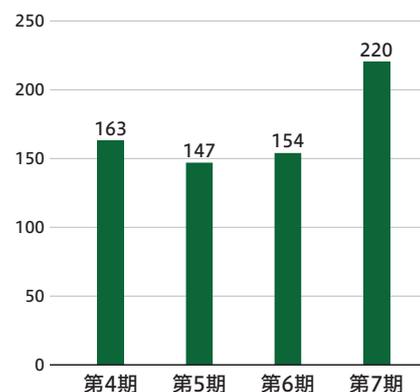
営業利益 (単位: 百万円)



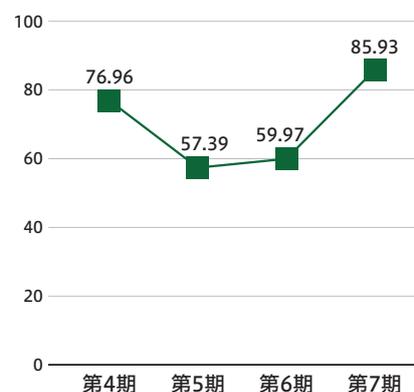
経常利益 (単位: 百万円)



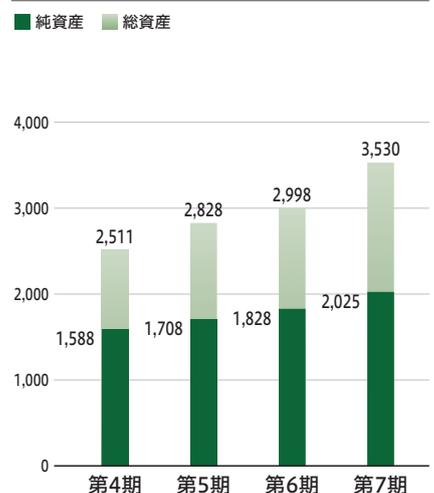
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



一株当たり当期純利益 (単位: 円)



純資産/総資産 (単位: 百万円)



※当社は、2017年3月10日に1株につき200株の株式分割を、また、2018年2月1日に1株につき2株の株式分割を行っております。上記「一株当たり当期純利益」のグラフでは、第4期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出した場合の数値を表記しております。

※記載金額は、表示単位未満の端数は切り捨てて表示しております。

わが国経済は、国内外の新型コロナウイルスの流行により、個人消費や設備投資が低迷する等、先行きは不透明な状況にあります。

当社グループが属する情報サービス産業については、新型コロナウイルスの流行による個人消費の減少で企業の業績が悪化し、新規ソフトウェア投資の見直しが行われるリスクはありますが、企業の競争力維持の為にソフトウェア投資は引き続き一定の需要があるものと思われまます。定常化しているIT技術者の人材不足については、ソフトウェア投資の減少により、一時的に人材不足が解消する可能性はありますが、長期的には人材不足が継続する見通しです。

このような状況のもと、当社グループは、テレワークの実施やリモート会議の活用、従業員の毎朝の検温等により感染症対策を行うことで事業の継続に

努め、引き続き一定の需要が見込まれる搬送機関連顧客や金融関連顧客からの受注を進める一方、受注時のリスク見極めの強化や見積精度の向上、各現場での生産性の向上による収益性の向上に努める方針です。しかしながら、新型コロナウイルスの流行によるソフトウェア投資の抑制により、技術者の待機工数の増加を見込んでいること等から減益を見込んでおります。また、情報システム投資による業務効率の向上は引き続き継続し、M&Aは積極的に推進する方針です。

2021年7月期の連結業績につきましては、売上高6,000百万円(当連結会計年度比1.9%増)、営業利益300百万円(当連結会計年度比12.9%減)、経常利益300百万円(当連結会計年度比12.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益197百万円(当連結会計年度比10.6%減)と予想しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止への迅速な対応

テレビ会議システムを使用した採用活動と社員研修を開催

①オンライン会社説明会 ②オンライン社員研修



どのような状況であっても、

1 採用活動を止めず、オンライン形式で積極的に面談を行い、当社の方針を明確にわかりやすく伝え、より良い人材の確保に努めております。

2 社員の成長や学びを止めず、オンライン形式で最大限の研修効果を発揮し、企業理念を実行できる社員を育成しております。

日本赤十字社へ寄付



新型コロナウイルスへの対応にあたる医療従事者の皆様および医療現場への支援ならびに、感染症拡大防止に貢献するため、「日本赤十字社」へ寄付いたしました。

左)日本赤十字社
パートナーシップ推進部 調整監
井上幹雄様
右)当社 代表取締役会長兼社長
鈴木裕紀

当社は、企業理念の一つに
「**業界・地域・社会貢献**」を掲げ

企業活動に取り組んでおります。

今後も企業の社会的責任を果たしていきたいと思ひます。

AIを活用したシステム提案

外観個人情報自動マスクングシステム オープンソースAIを活用し、お客様の作業負荷軽減、業務効率のアップに貢献します。

アパートなどの、外観写真の個人情報のマスクング処理を行います。

これまでは、アップロード前に、担当者が車のナンバーや人の顔など個人情報を探し、ペイントソフトでモザイク処理を行っていました。

本システム導入により、大半の処理が自動化され、業務負荷の低減に繋がります。



スマートデバイスを活用したリアルタイムコミュニケーションシステム

スマートフォン、タブレット等でリアルタイムに発着信可能な多人数ビデオチャットを開発し、建設・建築業、不動産業等で活用されています。

ビデオチャットの他、写真・動画・資料などのファイル共有を実現しています。また、クラウド環境を利用することで、将来的な拡張性にも柔軟に対応可能です。



※イメージ画像です。

会社概要 (2020年7月31日現在)

会社名	株式会社SYSホールディングス
英訳名	SYS Holdings Co.,Ltd.
所在地	愛知県名古屋市東区代官町35番16号
設立	2013(平成25)年8月1日
資本金	359,012千円
従業員数	844名(グループ含む)
連結子会社	(株)エスワイシステム (株)SYI (株)エス・ケイ (株)総合システムリサーチ (株)グローバル・インフォメーション・テクノロジー (株)テクノフュージョン (株)オルグ サイバーネックス(株) PT.SYS INDONESIA

役員 (2020年10月28日現在)

代表取締役会長兼社長	鈴木 裕紀
取締役常務執行役員	後藤 大祐
取締役	安田 鉄也
取締役	藤井 敏夫
常勤監査役	堀江 克由
監査役	森戸 尉之
監査役	深井 貴伸

(注) 1.取締役藤井敏夫氏は社外取締役であります。
2.監査役森戸尉之氏及び深井貴伸氏は社外監査役であります。

株式の状況 (2020年7月31日現在)

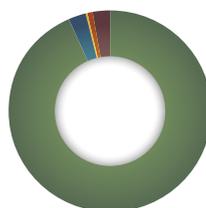
発行可能株式総数	8,000,000株
発行済株式の総数	2,572,000株
株主数	1,182名

大株主 (2020年7月31日現在)

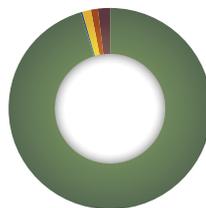
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
鈴木 裕紀	1,283,400	49.89
安田 鉄也	360,000	13.99
SYSHDグループ従業員持株会	163,900	6.37
和田 享	44,800	1.74
長崎 純一	26,000	1.01
瀬戸信用金庫	20,400	0.79
株式会社三井住友銀行	20,000	0.77
株式会社百五銀行	20,000	0.77
株式会社SBI証券	18,500	0.71
SMB C日興証券株式会社	16,600	0.64

株式分布状況 (2020年7月31日現在)

株式数構成比



株主数構成比



株主メモ

Information for Shareholders

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当 7月31日 中間配当 1月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
単元株式数	100株
上場金融商品取引所	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
公告方法	電子公告 アドレス: https://www.syshd.co.jp/ ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

・住所変更、単元未満株式の買取のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

・未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。